一万人目の男

水木しげる

だから俺は山はいやだといったんだ
シーッだまって

すき焼のにおいがするじゃないか
ほんとだ

あっ家だ
空家らしいぞ

いいにおいがするぜ
どれどれ

ばたん

もくもくもく

二人の男が入るなり家は戸をしめてまるで胃のように動きだした
ぽあ

再びドアが開かれたときには二人は下着にいたるまで家の養分として完全に吸収されていた

それは農家と寸分違わなかった……ワラはどうみてもワラであり

木はどうみても木であった

しかしそれは巧妙な凝体にすぎなかった
彼は動物でも植物でもない……
人間を捕食する頭のよい生物だった
おそらくこの地上が生存の条件に適した
ために発生したものであろう

彼は
養分を
とると　さらに
多くの養分をとるため
一階から二階へと
成長するのであった

おい　あのバラ色の家どうだい
あの家フランス女みてえなニオイがするでねえか

ステキねモンキー大会の会場あそこにしましょうよ

ロハときたひにゃこたえられねえ
さっそく使わしてもらおう

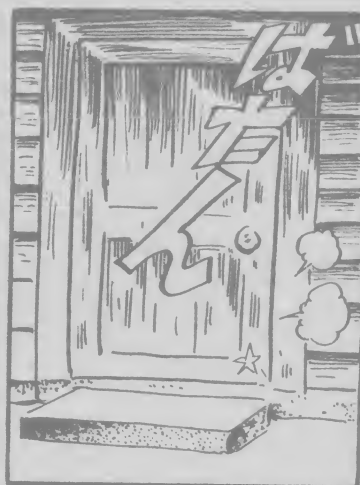
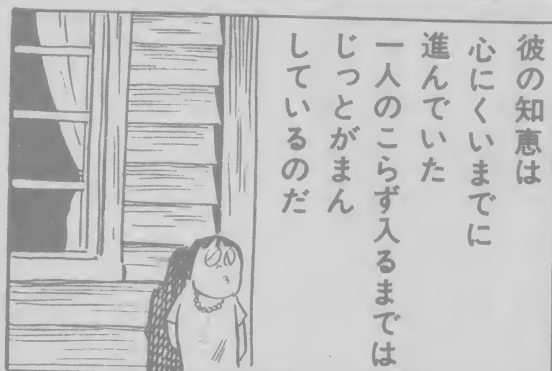
彼の知恵は心にくいまでに進んでいた一人のこらず入るまではじっとがまんしているのだ

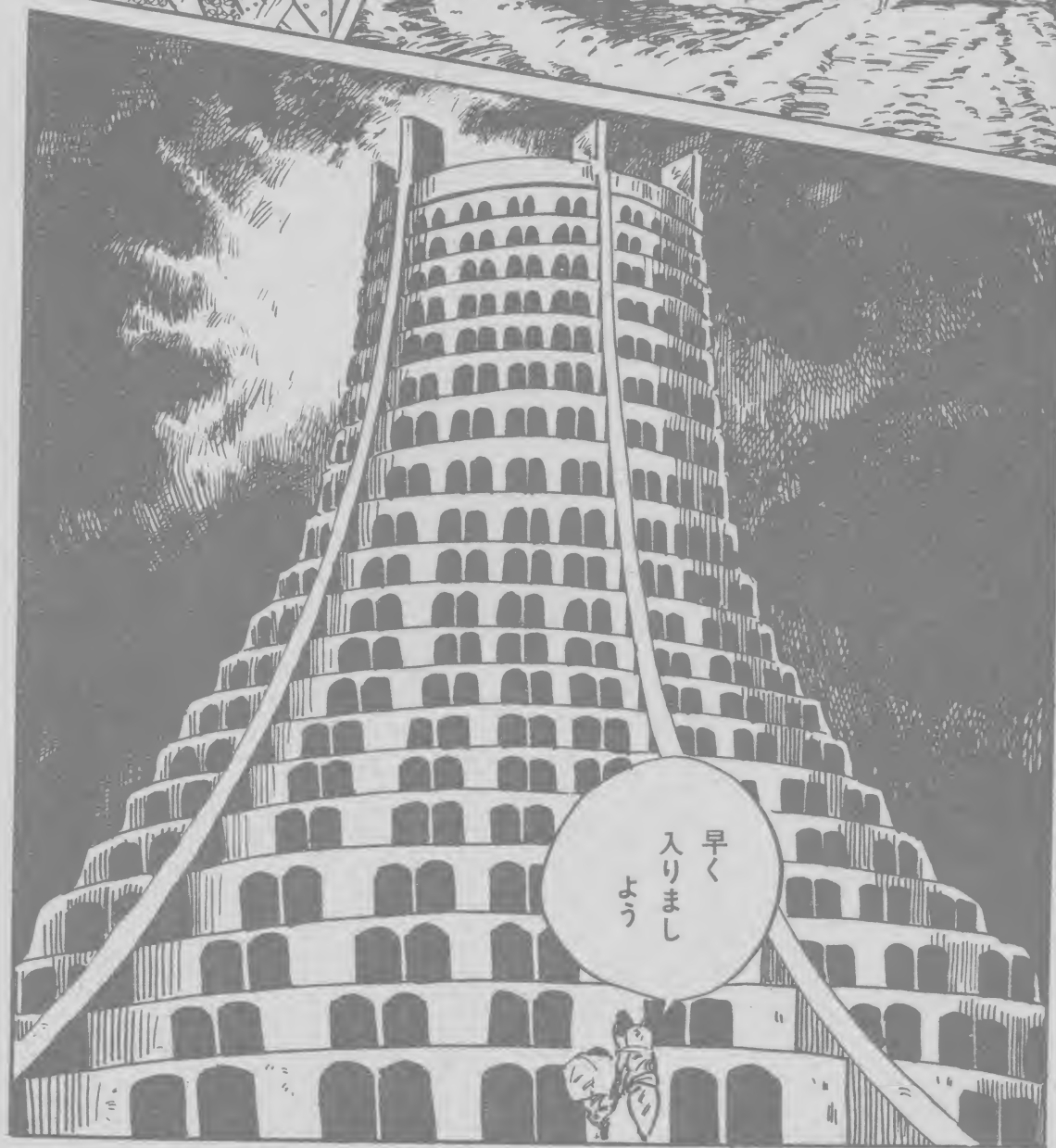
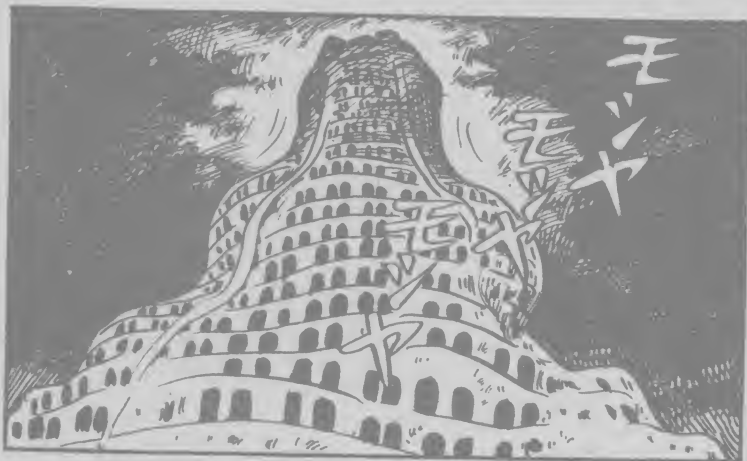
おい　ミーちゃんエレキがはじまるよ

なによハーさん

ばたん

おい　この窓あかねえじゃんか
このガラス鋼鉄よりも固いわよン

キャー
もぐもぐもぐ

やがて彼はアパートへと成長した
自体が生物であるから室内は完全な冷暖房つきだつた
彼は一年後には一万人収容できる巨大なマンションになつた
おい貧子 なんでも 人里はなれたところに大きなマンションがあるとよ
冷暖房つきでタダらしいや
ちょっと交通は不便だけどな
行きましょう
三畳で五千円なんてやりきれませんわ

おい貧子
あれだ
おいらも
やっと
家にありつけ
たぞ
まあ
すばらしい
マンションじゃ
ないの
なんでも
おいら
三人でちょうど
満員になる
らしいんだ
早く
入りまし
よう

彼はますます繁殖するだろう　貧乏人に住宅をあたえないという政府の政策が　この生物の繁殖に適しているのだ　最近ではさまざまな形に分散し　日本中いたるところに繁茂し　誇大広告でつったりして　住宅に困っている人を食いものにして繁殖をつづけている……

完

この二作は、おとなマンガ誌に最近発表したものですが、ぜひ「ガロ」の読者の方々にも読んでいただきたいと思って、ここに再録してもらいました。ご批判いただければ幸いです。（水木しげる）